

# 郷育カレッジ

## ふくつ散歩・上西郷編 内殿コース

令和7年11月7日(金)  
9時30分～12時  
(集合解散場所：中央公民館)



## 上西郷地域郷づくり推進協議会

## 歴史と文化薫る 内殿

【上西郷小学校(居尺)】

明治26年(1893)創立 校区5地区(舍利蔵・本木・畦町・内殿・上西郷)のシンボルとして5本のくすのきが植えられた。

校舎の建て替え等で現在3本残っている。

校旗は校庭のくすのきを5輪マークに表し、梅の花の芯に小学校の「小」の字を入れ周りを、くすのきの葉で囲んでいる。



八波則吉先生胸像



上西郷地域の「くすのき」

【平和のくすのき】

上西郷郷づくり交流センターは以前、福津市上西郷幼稚園(2001年神興幼稚園に統合)だった。

くすのきは当時の松尾政信園長が、長崎原爆被害を生き延びた「一本足鳥居」が残る山王神社の苗木を譲り受け「子供たちに、いつまでも平和の尊さを忘ずにいてもらおう」と植樹された。

### 学校教育制度

明治5年の学制発布以前の子供たちは寺子屋で学んでいた。

寺子屋では立ち振る舞い、行儀作法から生活の仕方まで師弟関係で結ばれていて、師匠はとても尊敬されていた。

嘉永6年(1853)～明治3年(1870)、本木村に「桑林亭」があり女子も学んでいた。

明治時代

5年(1872)学制発布

7年(1874)畦町村、上西郷村、下西郷村、久末村、八並村(明治6年)

19年(1886) 尋常小学校(義務教育)4年

高等小学校(宗像郡では東郷小学校のみ)4年

《町村立小学校・簡易小学校》設立

| 位置      | 所属町村        |
|---------|-------------|
| 八並村仮水   | 八並村、村山田     |
| 内殿村字太郎尺 | 内殿村         |
| 舍利蔵村字本村 | 舍利蔵村        |
| 上西郷村字針元 | 上西郷村        |
| 手光村字池田  | 手光村、久末村、津丸村 |
| 本木村字大浦  | 本木村、畦町村     |
| 下西郷村字諏訪 | 下西郷村        |

23年(1890)簡易科がなくなる。

26年(1893)上西郷尋常小学校4年設立

34年(1901)上西郷尋常高等科4年設立

40年(1907)義務教育6年

昭和時代

16年(1941)国民学校令(義務教育)6年

22年(1947)教育基本法・学校教育法(義務教育)6・3・3・4制



小学国語読本



【内殿】

官道(大宰府から大和へ向かう古代の幹線道路網。  
律令制の下全国に七道の駅路を整備したが鎌倉以降は海上交通へ移った)の西北・古内殿の村の名が、建久2年(1191)鎌倉時代初期の文書にある。  
律令時代に条里制が敷かれ、口分田があり耕す農民がいた。  
七丸八尺の名が残っている。

- 七丸(土井丸、乙丸、坂丸、太郎丸、三郎丸、今丸、次郎丸)
  - 八尺(笑尺、太郎尺、長尺、石尺、梅尺、牛蒡尺、帯尺、居尺)
- (筑前国続風土記拾遺)

戦国時代、糟屋側は大友氏が支配、宗像側は宗像大宮司家の支配下だった。  
大友勢は内殿を通して宗像領に侵入してくることが多く、西郷は度々戦場となった。  
その為群境に位置する内殿の飯盛山(牛蒡尺)に砦を築き、飯盛山は敵の侵入を防ぐ重要な役割を果していた。

宗像氏の家臣だった八波氏は宗像氏没落後(79代大宮司 氏貞)は内殿に帰農した。  
江戸時代初期に八波氏と他の移住者は笑尺・坂丸に移住した。  
この移住により集落の中心は古内殿から現在地に移ったと思われる。  
その後の元禄14年(1701)に日吉神社が現在地(笑尺)に移ったと棟札(むなふだ)にある。  
願主 八波養右は座元、他の連名者達も八波姓が多い。



【新道】

戦後～昭和30年(1955)国は米の生産調整をする為に農家に作付面積を減らす減反政策を要求した。新道は政策によって田んぼだった所を畑にしてその後道が出来た。  
その時に舍利蔵に行く道も出来た。

【道標】

- ・右 舍利蔵道 左 新四国札所三十三番八十二番札所観音寺
- ・日吉宮

道標



郷育カレッジ上西郷 内殿編 行程表

|        |    |                                     |           |     |
|--------|----|-------------------------------------|-----------|-----|
| 9:30分  | 出発 | 中央公民館                               | バス乗車      | トイレ |
| 9:45分  | 着  | 上西郷小学校                              | バス下車      |     |
|        |    | バスは内殿公民館に移動<br>郷づくり挨拶<br>八波則吉像、校庭見学 |           |     |
| 10:25分 | 着  | 観音堂                                 | 2班に分かれて見学 |     |
|        |    | 徒歩                                  |           |     |
| 10:50分 | 着  | 日吉神社                                |           | トイレ |
|        |    | 徒歩                                  |           |     |
| 11:20分 | 着  | 内殿公民館                               |           | トイレ |
|        |    | 八波則吉の功績に触れる                         |           |     |
| 11:40分 | 発  | バス乗車                                |           |     |
| 11:55分 | 着  | 中央公民館                               |           |     |

【観音堂】

上方(うえかた)の一番高い処に観音堂がある。  
お堂は昭和32年に寄附によって改築された。  
薬師如来像、以前は古内殿にあった大日如来像、阿弥陀が森と呼ばれた処にあった観音像等が祀られている。

観音堂

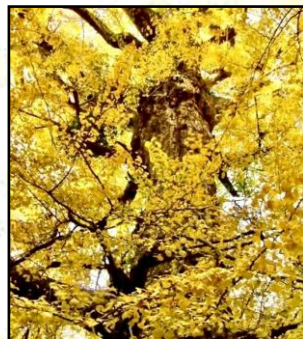


【溪雲寺】

寶光山溪雲寺 臨済宗(博多聖福寺の末寺) 創建は元禄元年(1688)



八波 則吉の銘(右端)



樹齢五百年大銀杏



六百俵の碑

【日吉神社(笑尺)】

内殿地区の氏神様、宗像大社75末社の1つ。  
創建当初は「十社王子社」(十の神々の総称)。  
その後天和2年(1682)「猿王子」を加えて「十一社宮」。  
明治3年(1870)に山王神社、同8年(1875)「日吉神社」に改称されている。  
境内には戦前から戦後にかけて貴船神社、福地神社、厳島神社が合祀された。  
樹齢500年の大銀杏が「福津36景」に選ばれている。  
(市指定文化財)

【絵馬】

- ・黒田二十五騎図 慶応3年(1867)に奉納された。  
黒田長政と24人の家臣が描かれている。長政が家督を次いでから24騎となった。
- ・川中島の合戦 明治17年(1884)に奉納された。  
18名の生徒が奉納して八波則吉の名前が見てとれる。
- ・三十六歌仙図(26面)



【八波則吉】

「国語の父」と称された八波則吉は、明治9年(1876)に旧上西郷村内殿に農家の次男として誕生。  
高等小学校、修猷館中学卒業後は上西郷小学校の代用教員をしていたが、兄の勧めで進学道に進む。  
第五高等学校(現熊本大学)から東京大学文学部へ進み常に首席の成績を通した。  
明治34年(1901)25歳の時に金沢第四高等学校(現金沢大学)に赴任、2年後に教授に昇進している。  
しかし眼疾患があり、研究的国学者から国語教科書の編集に全身全霊を捧げる事になる。  
教科書の特徴は、常に日本の農村に対する限りない愛情があふれていた。

昭和9年(1934)母校の熊本第五高等学校の教授を勤めて熊本を終の棲家としていたが、空襲で家と数千冊の蔵書が焼失してしまった。  
則吉夫婦は故郷の内殿に戻り、子供たちにイソップ物語やお伽話を聞かせて「お話しおじさん」と慕われていた。  
晩年は一番風呂に入るのが楽しみだった。  
昭和28年(1953)没 享年77歳。

- ・尋常小学校の国語読本の編纂  
大正5年(1916)～大正9年(1920)  
巻一「ハナ、ハト、マメ、マス」～ 巻八  
大正6年(191)～昭和10年(1935)まで使用された。
- ・サクラ読本 昭和8年(1933)～昭和15年(1940)まで使用。
- ・多くの小学校、中学校、高等学校の校歌や唱歌や市歌を作詞した。